

雜草 (二)

女高師 大岩 金

4、水生のもの

水生のものとして申しましても濕地に自生するものも合せて述べやうと思ひます。順序は思ひ出したまゝを次々に記します。

イ、たぬきも

莖は繊細で長く葉も細くて細裂し葉上には捕蟲囊があります。此の藻の中には種々の種類があります。何れも捕蟲囊を持つて居りまして水中の小動物を捕食するので有名な植物であります。濕地或は池、澤、水田等で採集して來ればよいのであります。是を一定の容器の中で培養致しますのは大變困難な事ださうであります。植物の大家の方方もなか／＼成功せぬと申されて居ります。然し

小容器に入れて小動物を給與して捕蟲の状態を見るといふことも興味のある事であらうと思ひます。小動物と申しますのは「ミジンコ」のやうなもので宜しいさうであります。此の「ミジンコ」を得ます方法と致しましては馬糞を一定の容器に入れて水を盛つて置きますと澤山に發生するさうであります。

ロ、まつも

水中に沈んで居ります。細長い莖で節々に多數の葉が輪生して居ります。夏になりますと金魚屋の店頭で硝子の器に「ランチュウ」などに配されて艶麗な金魚の價値を高めるには是非なくてはならぬものであります。金魚屋で申します所謂「さんざ

よも「はこの「まつも」の事であるさうであります。
今一つ序に申し上げたいのはこの藻は金魚に産卵させる種付け用の水草としては最もよいものださうであります。金魚は此の藻に喜んで産卵するのであります。

ハ、きんぎよも

前記の金魚屋に使用する藻とは異なつたものであります。圓い莖は長く延びまして葉を輪生し絲状で羽毛の様に裂けて居ります。

一般に前記の二種はよく誤り傳へられて居るやうでありますから特に蛇足を勞しました次第であります。尙水生植物と魚類との關係は密接なものでありまして魚類の生活に重要な酸素を與へる役をするので金魚を飼ふ時等には飾りとして使ふのみならず必ず此の様な水草を投じておく必要があるやうであります。

ニ、かやつりぐさ

「ゐ」の生ずるやうな路傍濕地等に自生して居ります。莖がよく割れる性質を持つてゐる所からこの莖丈を取つて小兒二人で此の莖の兩端を互に割るのでありますがその割り方は一方は莖を垂直に他の一方は垂平即ち兩端の割目は直角になる様に靜かに割つて行きまして端を少し残しますと丁度升形に割る事が出来るのであります。ところが互が垂直或は垂平に割ります時は莖は眞半分になつてしまふ理であります。或は又一片が太く他の一片が細いものになることもありしますので大變喜んで二人で遊ぶものであります。

この水草は夏の日の水邊に野生してゐるのも野趣があつて宜しいやうであります。そして「かやつりぐさ」の中にも色々の種類がありますが「てんつき」といふ種類は水邊に植えて捨て難いものであります。花莖の高さは一尺位で花は莖の頂に生じます。卵形の穂は大きくて愛らしいものであ

ります。

尙同じ科の中に「まつばぬ」といふ水濕の多い田中等に簇生してゐる多年生で丈が僅に一寸位で葉が絲狀で莖の頂に小さな卵狀の楕圓形をした穂を出す誠に氣持のよい青々としたものもあります。

ホ、ひし

「まつばも」や「きんぎよも」等の自生して居ります場所ではこれが根を採集することは一寸困難な仕事であります。即ち水面に多數の葉を繖出しまして水中莖は長くなつてゐるのであります。秋になりますと相當大形の所謂「ひし」の實が出来ます。それを採集して泥に埋めて置きますれば立派な植物が出来ぬこともありませぬ。

又この實は生のまゝでも堅い皮を破つて中の白色の肉を食べることが出来ます。一寸風味のよいもので私の小供の時には喜んで食べたものであり

ます。いや大人になつても結構であります。何の根據もないことでありますが、ピタミンが澤山含まれては居らぬかと思はれるやうな氣が致します。又煮て食べましても結構であります。唯だ皮が堅いのと棘があるので一寸食べます時に困ります。

食べることばかり申しましたが此の水面に浮いた葉は殆ど三角形をして居りまして雅致があるもののやうに思ひます「ひめびし」といふのは小形でありまして是も泉水等に野趣を加へるには結構であらう考へられます。特にこの「ひし」の葉柄に具はる膨脹部を「ヒゴヒ」等がバクリバクリと音をたて、食べやうとする様等は又格別の情味のあるものゝやうであります。

へ、ひつじぐま

「はす」等と同科のものでありまして又例の園藝植物として相當重きをなしてゐる水蓮もこの科の

ものであります。何と申しましても栽培された水蓮のやうに色の變化それに加へて香の高いもの等に比較しますのは雑草の價値を無視した申分であらうと私は思ふのであります。

それからこの「ひつじぐさ」と申す名稱の起りてあります。此の植物の花は丁度末の刻ヒツヂ即ち午後二時頃になりますと花が閉ぢる習性がありますため、その名を得たものださうであります。又この名は一般に水蓮にも用ひられることがありますが若しち疑ひの方は一度採集して實驗なさいますならばその眞偽が明瞭にならうと思ひます。

自生してゐる場所は沼澤等でありまして東京近郊にもよく見る多年生の植物であります。葉は徑三四寸の馬蹄形をして居りまして基脚に深い欠刻があります。濃綠色をして水面に浮び七八月頃になりますとその間に少し頭をもちあげて白い可愛らしい花を開くのであります。

同じくひつじぐさ科の植物で「かはほね」といふ植物があります。これも沼とか河流等の水の淺い場所に「じゅんさい」等と共に愛すべき野生水好植物であります。

又同科でありまして「ちにはす」といふ名を聞いても恐ろしさうな植物があります。ひつじぐさ科のちにはすでありますからさう恐れる程のものであります。まゝいが葉脈は凸起し全體に刺を有し葉の形は楕形でその上縁があつて大さも直徑半間といふ偉大さであります。花もなかなかいかめしい形をした刺だらけのものであります。

ト、みづあふひ

廢田水澤等に自生して居りますが時々栽培されてゐるのを見受けることもあります。花も葉も共に觀賞する價値のあるものであります。花は夏から秋の候にかけて濃い碧色又は白色の愛らしい花を開きます。葉は圓い心臟形であります。

チ、うさくさ

この科にも種々あります。「ひんじも」等は面白い形で繁殖するものであります。「うさくさ」を繁殖させるには種類に依りますと池一面に益に繁茂して反つて困る結果になる事もある様でありますから注意を要することと思ひます。

その他の科、おもだか科、いばらも科、みつわらび科、ゆきのした科（「ねこのめさう」の密生してゐるもの）其の外薺苔等の植物に培養して觀賞用として其の價値が充分であると認められるものが沼澤に満ちて居る様でありますから皆様も風光貽蕩百花の春たる昨今を利用なさいますして一度郊外の沼澤に杖を引かれお氣に召した植物を採集持參の上試作なさいますことをお勧め致します。唯採集の時にその植物の自生してゐた場所の状況をよくおとり調べの上一先づ自生の場所となるべく同様の状態で試作なさいますことを望みます。

